



平成26年7月22日 第4巻(第2号)

発行：東京都新宿区住吉町8-20 四谷チンゴビル2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

## もくじ

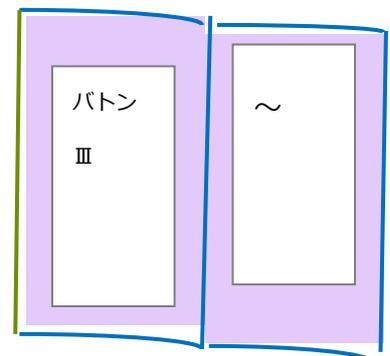
1. 現地活動 ～男の遊ぼう会～ ①協力員 ②現地職員
2. 石巻の今・・・ ～石巻に恋しちゃった～ イベント紹介
3. 災害支援チームからのお知らせ
4. 災害支援ニュース発行のお知らせ
5. あとがき

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ」  
を発行することとなりました。

2015年2月の発行に向けて

準備中です。

しばらくお待ちください！！



「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ」

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ」

については、“3. 災害支援チームからのお知らせ”をご参照ください。

## 1. 現地活動報告

当協会の活動については、現地職員や協力員の報告などでご存知の方も多いと思います。

今回は、復興期の“今”をお知らせしたいと思います。どんな支援をしているのか？

また、何を大切に支援者として活動を行っているのかを報告したいと思います。

~~~~~/~~~~~/~~~~~/~~~~~/~~~~~/~~~~~/~~~~~/~~~~~/~~~~

### ～男の遊ぼう会～

協力員 松井久典

石巻の海は、どこまでも穏やかで、恵みの海の幸をふんだんに運んでくれる。波間に浮かぶ浮きを見て、そう思いました。

「この海の底が見えた。その後、あの灯台が壊れるほどの津波がきた。」「2日間、水は引かなかった。」とまるで先日の事の様に話す「男」たちがいました。ここは、「男の遊ぼう会」。どうしても孤立しがちな男性を誘いだし、社会参加へ結び付けようとして、グループワークを開始して1年が経ちました。

グループワークはある程度成功して、朝からテンション高く男達が集まってきました。「今日は、朝から引き潮に向かうからダメだよ。」「この季節に釣れるのは、水温が未だ上がりきらないから」「カレイを狙うのなら、糸は・・・」「やっぱりリールでないと・・・」とそれだけでなく方言で聞き取れないのに、専門用語が飛び交い、改めて病院に来た患者さんの気持ちがよくわかりました。

予定時間の2時間は、あっという間に過ぎ、10匹程度の小魚を調理するために医師会



館の調理実習室へ向かいました。もちろん、帰りの車でも、隣のグループがカレイを釣り上げていたのが、よほど気になったのか、「だから糸が・・・」「ポイントが・・・」と話に花を咲かせていました。

実は、数日前に石巻でヘルスプロモーション推進センター代表の岩室紳也氏の講演を聴く機会があり、岩室氏は「自殺対策のターゲットは男性であり、そもそも雄（オス）とは、群れない習性。関係性に学べない、一人で犯罪。欲望（性欲・顕示欲・独占欲、等々）の塊。日々、理性と欲望が葛藤している。プライドの生き物。人に言われても変われず、おだてられないといじける。」（原文のママ）と聞いていたので、自分のことはさておき、この事業の重要さを再確認しました。

1年を経て驚いたのが、会としての自主性が育ってきたことで、次回の内容を決めるとき、「本当にしたいのは、一杯（呑み会）だけど、そうともいかないだろうし、社会福祉会の（そのような会ではありませんが…）予算と言うものもあるだろうし…」と、徐々に会としての親密さと会の運営を気遣いながら、会を進めてゆきたいという言動が見

られたことです。

いつ、釣れるかは分からないし、名人でも釣れない時もあるけれど、釣り糸を垂れ続けることが大切である、と教えてもらった一瞬でした



## ～男の遊ぼう会～ 1周年～

現地職員 岡村 翠

男の遊ぼう会は2013年7月に立ちあげた。立ち上げたきっかけ（背景）は、『今までの支援を通して中高年男性の交流できる場がないことがわかった』からだった。津波で家財道具はもちろん、趣味物やこれまでの思い出の収集物も流された。遊び相手の『友人や知人を亡く』し、これまで生活してきた地域を離れることを余儀なくされている。

私はこの事業に携わることになり、改めて「『男の遊び』ってどんなことがあるだろう」と考えてみた。私が知っている『男性の遊び』は、お金がかかる。コツコツと道具類を集め、磨いたり、眺めたり、集めたものを使って自分仕様にしたり…。賭け事が好きな印象もある。賭け事は1人遊びもできるが、仲間がいて、人数が揃ってこそ楽しい頭脳ゲームである。賭け事を仕事にしている人は、弱い対

戦相手が良いだろうが、遊びになると、自分と同等、若しくは自分以上の相手の方が楽しいのではないかと思った。そんなことを考えると、震災によって奪われたモノは沢山あり、「そうだ。あれをしてみよう。」と思っても道具はないし、人もいない。買い揃えるだけのお金も気力もないことに気付かされた。

震災被害はそんなことばかりではない。震災前の生活からの延長で、夫婦関係や家族関係の悪化により、離婚や別居に陥った人もいる。石巻医療圏 健康・生活復興協議会(RCI)の調査員から託されたケースでは、家庭内の役割を失った男の人たちがたくさんいることを教えられた。

仮設ではどうだったのだろう。阪神淡路大震災の教訓から、仮設団地ごとに集会所が設けられ、ボランティアの人たちのイベントが行われていた。そのイベントは、ボランティアの人たちがこなくなっても、女性たちにとっては楽しい集まり「お茶っこ」に展開して

いった。自治会活動はあっても、集会所は男性にとっては少し、近寄りがたい集まり場になっていきつつあった。そんな変化の中で、新聞やニュースでは、被災地での孤独死が報じられはじめていた。

私たち日本医療社会福祉協会は、避難所支援後、RCI と共に在宅被災者を対象に支援することを選んだ。仮設ではなく地域に男性たちの集まれる場をつくり、『社会参加・生きがいの創出や持てる力の回復』を狙ってイベントを始めることにした。イベント主催は日本医療社会福祉協会、共催に石巻医療圏 健康・生活復興協議会（RCI）で始まり、イベント第一回目の参加者は、70 歳代の男性 2 人だった。参加者よりもスタッフの数が多い、「至れり尽くせり」の集まりだった。調理室から始まったが、海が近い「巻きっ子」に釣りは欠かせなかった。「釣りざお、流されたっちゃ」という話を聞いて、100 円ショップで釣りざおを購入し、3 回、開催した。100 円ショップの釣り竿だが、魚はつれ、参加者に笑顔が戻った。もちろん、一人での

「食」よりも、みんなでの「食」という楽しみは欠かせなかった。そのため、イベントの多くには調理をし、一緒に食べる事は殆どの会で行われている。

参加者の増減はもちろんあるが、嬉しい減もあった。50 歳代の男性の就職による不参加。70 歳代でも「男の遊ぼう会」以外の場で、活動の中心的存在となり離れていった方もいた。

この企画は参加者の自立に向けての経過をステップ方式で理解することになっている。まずは、「場に慣れ、楽しんでもらう」。次は「交流を図り、気付きを得る」。そして、「自分がこれからどうありたいか考える」。最後に、「役割を持って生きる」だ。参加者それぞれが踏むステップの早さが異なるため、スタッフは不安になるときもある。でも何とか 1 年が過ぎ、2 年目が始まった。現地では住民の方々の復興住宅への移転から地域づくりに対する意識が高まっている。私たちもそれを意識しながら、それぞれのステップアップを見守っている。



## 2. 石巻の今・・・

### ～石巻に恋しちゃった～を紹介！

被災地という言葉は、なんだか大変そう・・・。そこで暮らす人々はどんな生活を送っているのかしら？と、思うかもしれませんが、石巻で暮らすみなさんは、自分の強みを生かして新たな“まちづくり”として、NPOと協働して楽しい活動を企画しています。「楽しむ・つながる・つくる」を、覗いてみませんか？



### 「石巻に恋しちゃった」

### …HPより抜粋しました

甚大な被害をもたらした東日本大震災からもうすぐ3年、被災された方々は、多くの苦難を乗り越えながら、徐々に日常の生活を取り戻しつつあります。

復興への道のりは、とても長いものになるでしょう。では、復興というのはいったい何なのでしょう。私たちは、震災前よりも暮らしやすい、もっと好きになれる地域を、みんなの手でつくっていくことだと考えています。

その具体的な取り組みとして、2013年2月、様々な趣味や特技を持つ26人の「達人」による体験プログラム「石巻に恋しちゃった♡」（通称

「石恋♡」）を始めました。地元で根差したプログラムは大変好評で、石巻にこんなに素晴らしい人や場所があったのかと驚きの声が上がりました。そこに住まう人々が、それぞれの好きなことや得意なことを持ち寄って輝けるまち—それはきっと次の世代を担う子どもたちにとっても、楽しいまちであることでしょう。

<http://ishikoi.onpaku.com/>





今回は、「第5回 まちびらき」(2014.7.19 ~ 8.24)です。さまざまな達人とともに、石巻・女川・東松島などでさまざまな体験ができるプログラムがそろっています。ボランティアとして被災地へ行くのは、なんだか自信もないし・・・という方は“たのしく、被災から復興のまちを知る”ことから初めてみませんか？ 私は、金華山のツアーや早朝座禅、都合でいけませんでした。が日本製紙工場見学ツアーなど地元のよいところ、素敵に変わっていく様子を一緒に体験していきました。このような取り組みを、自分の住んでいる地域でできたらいいなあと感じてしまう今日この頃です。

編集担当 富永

### 3. 災害支援チームからのお知らせ

#### 【1. 協力員募集】

##### 現 地

現在、1日にあたり上限2から3名で募集しております。

**現地までの旅費・交通費は自己負担をお願い致します。**

活動日程につきましては下記のようにお願い致します。

**期 間：** 平日3日以上、

**受入日：** 月曜日 と 水曜日 (土、日、祝日は活動致しません。)

但し、**上記以外であれば支援活動が可能な場合は**現地担当までご相談ください。

※ **出発2日前までには(到着時刻等を含めて)**は必ず現地担当にご連絡ください。

今後、活動に参加される方でその年度初回参加時には、簡単な資料を郵送致します。

ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

## 事務所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが1～2ヶ月に1回でも構いません。

ご協力お願い致します。

### 【2. 災害支援チーム会議開催のお知らせ】

次回予定 : 8月10日 15:00 ~ 17:00 。

### 【3. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』と  
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』の

販売を行っています！

発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅡ』にまとめました。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。



※ご注文は注文用紙で承ります。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

バトンⅠ:URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=45](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45)

バトンⅡ:URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=47](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47)

### 【4.facebook】



facebookでも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

## 【6.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。

URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>



## 4. 災害支援ニュース 次回発行のお知らせ

発行予定は8月20日です。

## 5. あとがき

災害支援チーム事務局から

第2号が、発行できました。

支援して下さった協力員と会員みなさまに、現地活動と今の石巻をもっと身近に知って頂けるような内容にしていきたいと思えます。

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース  
平成 26 年 7 月 22 日 第 4 巻 2 号  
作成 日本医療社会福祉協会  
災害支援チーム事務局